

ラオス ルアンパバーン エポックと伝統舞踊

【エポック人形劇】

シートン・マノラーの物語

【ラオス伝統舞踊】

チャンパー花の踊り

モン族伝統舞踊

カム族のバンブーダンス

ルアンパバーン伝統舞踊

ルアンパバーンの新しい日

こんにちはルアンパバーン

【エポック人形劇】

シートン・マノラーの物語

ペンチャン国の王子：シートン

ペンチャン国の王：アティッド

プーグン国の姫：マノラー

獵師：カタイサーイ

天女：キンナリー

【導入】

「ペンチャンの国はこの世で最も歴史と文化の深い国として知られていました。国王と王妃は正しく国を治め、国の繁栄と幸福のために努めていました。

やがて二人に息子が生まれ、名をシートンと名付けました。シートンは生まれながらに弓矢を背負っていたとされ、これは王になるにふさわしく強運な人物であることを示すものでした。」

【舞台：王宮】

ある日、ペンチャン国の王子、シートンが夢の中で美しい羽の生えた鳥の飛ぶ姿が見えました。これはきっと美しい姫に出会うという吉報に違いありません。

【舞台：獵師カタイサーイの家で】

ペンチャン国の麓には小さな獵師の町がありました。町人の一人、カタイサーイはある日彼の妻にこう告げます。

「これからしばらく長い獵に行ってくる。大きな獲物を捕らえてくれればきっと王にも認めてもらえるだろう。」

妻は止めようとしたが、カタイサーイの意思は強く、あっという間に出かけて行ってしまいました。

【舞台:森で】

長い長い旅路の途中、へとへとになり飲み水を探し歩いていると、カタイサーイは森の中に青く澄んだ美しい池があるのを見つけました。

たっぷり水を飲み水浴びをするうちに、ほとりでうとうとと寝入ってしまいました。

またとある山深い溪谷にプーグンという国がありました。

国王の名をカイケオと言い、カイケオ王にはただ一人の娘がありました。

マノラーと名付けられたその娘は、美しい羽根と尾をもつ天女（キンナリー）として、他のキンナリーよりもひとときわ美しい姫に育ちました。

ある日マノラーは水浴びをするためにほかのキンナリーを連れ山の上にある大きな池まで出かけていきました。

そこに羽と尾をおろし皆で水浴びを楽しんでいると、木陰から一人覗き見る影がありました。

「あれは世に名高いマノラーではないか！これを国に持ち帰れば大手柄だ！」カタイサーイはどのようにマノラーを捕まえようか、策を練ります。

そうとは知らず水浴びを楽しむマノラーとキンナリーたち。

その穏やかな時間を搔っ攫うように、突如、カタ
イサーイがマノラーの羽と尾をつかみ奪ってい
きました。驚いたキンナリーたちは羽をつけると
ぱっと飛び上がって逃げていきました。

仲間のキンナリー達はマノラーを助けようとカタ
イサーイに立ち向かいますが、魔術で退けられ
しまいます。

こうしてマノラーはカタイサーイに捕まってしま
いました。

「生まれたての卵のように美しい姫だ。

連れて帰って嫁にするか....。

いや、だめだだめだ！俺には家で待つ妻がいるじゃないか！

それよりもこのマノラーを王に捧げれば、金銀財宝を沢山頂けるに違いない！」

カタイサーイはこうしてマノラーをペンチャンの国に連れて行ってしまいました。

【舞台：王宮で】

村のカタイサーイが、美しいキンナリーを連れ
帰ってきたというニュースを受け取ったお付きた
ち。

急いで王へ伝えます。

あの美しいと名高いマノラーを連れてきたと聞
いて大騒ぎの王宮の者たち。

王はマノラーを姫に迎えようと考えました。

カタイサーイはすぐに国王にマノラーを捧げ、マノラーと引き換えにたくさんの金や宝石を手に入れました。

初めは悲しがっていたマノラーでしたが、日を過ごすうちに王子シートンに心を許し、やがて二人は結婚することになりました。

しばらくは幸せに過ごしていた2人でしたが...

ある日シートンは隣国からの宣戦布告を受け取りました。

これは長い戦いになりそうでした。

戦に出なければならない夫にマノラーは花の首飾りを渡し、こう言いました。

「この花が枯れた時は、私の身になにかが起こった時です。必ず帰ってきてくださいね。」

あまりに悲しそうなマノラーが心配になったシートンは、マノラーが遠くに飛んでいってしまわぬよう、羽と尾を王妃である母に預けておくことにしました。

シートンが出かけた後、マノラーはいつ
帰らぬかも分からない夫を思い、眠るこ
ともできず食べることもできず泣き暮らし
ました。

そんなマノラーの様子を見たアティッド王と王妃は、マノラーを励まそうと盛大なパーティーをひらくことにしました。

お付きに命令をし、音楽を鳴らし始めます。

たくさんの煌びやかな音楽と踊りが披露される中、マノラーは王妃に「私の羽と尾があればきっともっと綺麗に踊ることができますのに。」と嘆きます。

なんとかしてマノラーを元気づけたい王妃は、預かっていた羽と尾をマノラーに渡してしまいました。

羽と尾を身に着けたマノラーは、ぱっと空高く飛んでみせると、皆に力強く告げました。「私はシートンを探しにいきます。」

皆が呼び叫ぶ中、マノラーは天高く飛んで行ってしまいました。

やがてシートンは戦いに勝利し急いで国に帰ってきました。しかしどこを見てもマノラーの姿が見えません。

「マノラーは？マノラーはどこに？」両親に尋ねても二人は首をふるばかり。

「私が悪いのです。私がマノラーを信じて羽を渡してしまったから…」王妃は自分の間違いを嘆き悲しみました。

シートンにはもうどうすることもできません。

終

ラオス ルアンパバーン エポックと伝統舞踊

【ラオス伝統舞踊】

チャンパー花の踊り

モン族伝統舞踊

カム族のバンブーダンス

ルアンパバーン伝統舞踊

ルアンパバーンの新しい日

こんにちはルアンパバーン